鹿児島県立埋蔵文化財センター
Kagoshima Prefectural Archaeological Center

埋文（まいぶん）だより

第８３号
令和２年10月30日発行

河口貞徳とかごしまの考古学

河口貞徳（かわぐちさだのり）氏（1909-2011）は昭和20年代前半から鹿児島県内の多くの遺跡発掘調査を手がけ，それらの成果や論文を数多く発表してきました。鹿児島県における考古学研究の先駆者（せんくしゃ）であり，今日の発掘調査方法や土器型式等の礎（いしずえ）を築きあげてきた考古学者の一人です。また，有志と共に結成した鹿児島県考古学会を，会長として約40年に渡り牽引（けんいん）してこられました。

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは氏の残された遺物や資料等を再整理する事業「よみがえる河口コレクションの世界」に取り組んでいます。今回のたよりでは氏の生涯と業績の一部について紹介します。

写真：鹿児島玉龍高等学校考古学資料室にて（昭和30年代）

目　次

・河口貞徳とかごしまの考古学……１
・考古学者　河口貞徳の生涯と業績……２・３
・夏休みにパワーアップ，デジタルコンテンツ…４
・ワクワク考古楽・発掘速報展開催中！……５
・発掘調査速報（鹿児島城跡・久保田牧遺跡）……６

考古学者　河口貞徳の生涯と業績

鹿児島玉龍高等学校にて（鹿屋市祓川遺跡出土短甲復元の様子）

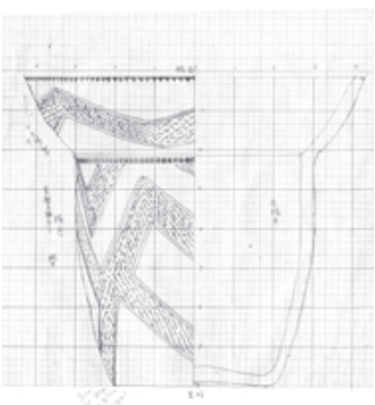
河口貞徳氏は1909（明治42）年鹿児島市加治屋町に生まれ，学生時代や教員時代の一時期は東京や福岡等の県外で生活しますが，人生の大半を鹿児島で過ごしました。発掘調査に携わるようになったのは，40歳になった1949（昭和24）年に鹿児島市笹貫遺跡で行った調査からで，その年に寺師見國氏や三友国五郎氏らとともに創立した鹿児島県考古学会は昨年70周年を迎えました。氏は当初から事務局担当者として会を主導し，1971（昭和46）年から亡くなるまでの約40年間は，会長として会を運営するとともに，県下の遺跡調査・保護に努められました。次に氏の主な業績について振り返ります。

発掘調査指導時の様子

1952(昭和27)年に調査し，報告された日置市黒川洞穴出土の土器は黒川式土器と呼ばれ，当時九州で出土する縄文時代晩期の土器すべてに使われていました。

1958(昭和33)年には砂鉄採掘によって破壊されていた錦江町山ノ口遺跡を調査するとともに，関係者によって持ち去られていた軽石製品などを収集しています。これらの資料はその後，弥生時代の祭祀（さいし）遺物を代表する資料として多くの図書に掲載されるとともに全国の展示会などで公開されました。

1962(昭和37)年に調査した南さつま市高橋貝塚からは，南九州における稲作開始を物語る多くの資料が出土しました。中でも製作途中の南島産貝殻の出土は，この地が弥生時代に北九州などで出土する貝製腕輪の中継地であった可能性について議論される契機となりました。また，1976(昭和51)年に近くの下小路（しもしょうじ）遺跡で発見された合わせ口甕棺墓（かめかんぼ）は，甕棺や出土した腕輪の形から，貝製腕輪製作に携わった人物の墓ではないかと考えられ注目されました。


河口氏の塞ノ神式土器実測図

1968(昭和43)年から翌年にかけて，南さつま市上加世田遺跡や日置市入来遺跡で，シラス採取などによって不幸にも遺跡が破壊される出来事が起こりました。氏は県考古学会員や高校生などの応援をもらいながら，時には鹿児島市から現場まで１人あるいは奥様と２人で出かけ，必死に調査を続けました。遺跡はなくなったものの，南九州の縄文時代後期終末から弥生時代中期初頭を代表する貴重な遺構の記録や遺物が残されることとなりました。

1950年代以降，各地の縄文時代遺跡を調査し，縄文土器の新旧関係を調べる編年作業を進めていましたが，1980（昭和55)年に刊行された霧島市石峰遺跡の報告書では，後に研究者の間で「河口編年」と呼ばれることとなる，南九州で出土する縄文土器の編年案を提示しました。これは今日の縄文土器研究の基礎となっています。

河口コレクション展示の様子（上野原縄文の森）

氏はこうした調査で出土した遺物の多くを自宅で洗い，注記・接合・復元し，『鹿児島考古』等の考古学専門誌で積極的に紹介してきました。これらの遺物を見直し，新たな発見・解釈を発表するなど，郷土の歴史解明に対する意欲・熱意は，亡くなる2011（平成23)年まで衰えることはありませんでした。

2012(平成24)年12月，これらの資料は埋蔵文化財センターに寄贈され，再整理作業が受け継がれています。氏の残した数多くの貴重な資料の一部は，上野原縄文の森展示館や埋蔵文化財センターのエントランスホールで常時紹介しています。ぜひご覧ください。

河口貞徳略年譜

●**ゴシック**は主な発掘調査履歴
●「　」内は発表論文・著書

年代	年齢	年　　譜
1909 年（明治 42）	0	鹿児島市加治屋町にて精松幸吉の三男として誕生
1928 年（昭和 3）	19	鹿児島県立第二鹿児島中学校卒業
1930 年（昭和 5）	21	鹿児島県第一師範学校本科二部卒業
1930 年（昭和 5）	21	鹿児島県公立玉江尋常高等小学校訓導
1933 年（昭和 8）	24	鹿児島県第一師範学校専攻科卒業
1936 年（昭和 11）	27	福岡県公立八幡小学校教員
1939 年（昭和 14）	30	河口貞徳と改姓
1940 年（昭和 15）	31	東京市高輪台尋常小学校訓導
1942 年（昭和 17）	33	立正大学卒業
1943 年（昭和 18）	34	鹿児島市鶴嶺高等女学校教諭
1948 年（昭和 23）	39	鹿児島高等学校第一部教諭
1949 年（昭和 24）	40	寺師見國・三友国五郎などと鹿児島県考古学会を創立　**笹貫遺跡調査**
1950 年（昭和 25）	41	鹿児島玉龍高等学校教諭　**中津野遺跡・千束遺跡・岩崎遺跡・一の宮遺跡調査**
1951 年（昭和 26）	42	**草野貝塚調査**　「一の宮遺蹟報告」
1952 年（昭和 27）	43	日本考古学協会員となる。寺師見國・三友国五郎・国分直一等と『鹿児島県考古学会紀要』を発行 鹿児島市文化財専門委員。京都大学文学部に内地留学　**春日町遺跡・黒川洞穴・大原遺跡調査** 「鹿児島県の弥生式諸遺蹟について」
1953 年（昭和 28）	44	鹿児島県文化財専門委員（文化財保護審議会委員～ 1995）　**石坂上遺跡調査**
1954 年（昭和 29）	45	**宇宿貝塚調査**
1955 年（昭和 30）	46	「鹿児島のおいたち－先史時代」「鹿児島市春日町遺蹟発掘調査報告」 「南九州出土の条痕土器－吉田村及び知覧町遺跡」
1957 年（昭和 32）	48	「南九州後期の縄文式土器－市来式土器」
1958 年（昭和 33）	49	**山ノ口遺跡調査**
1960 年（昭和 35）	51	「山ノ口遺跡」
1961 年（昭和 36）	52	鹿児島大学非常勤講師（～ 1985）**宝島浜坂貝塚調査**
1962 年（昭和 37）	53	**高橋貝塚調査**
1963 年（昭和 38）	54	**入佐遺跡調査**
1965 年（昭和 40）	56	「鹿児島県高橋貝塚」
1966 年（昭和 41）	57	南日本文化賞（南日本新聞社）　**鶴嶺窯跡調査**
1967 年（昭和 42）	58	鹿児島玉龍高等学校を退職。池水寛治等と鹿児島県史跡調査会を創立 「鹿児島県黒川洞穴」
1968 年（昭和 43）	59	**上加世田遺跡調査**
1969 年（昭和 44）	60	**入来遺跡調査**
1970 年（昭和 45）	61	文化財功労者表彰（文化庁）
1971 年（昭和 46）	62	鹿児島県考古学会会長就任　**平栫貝塚調査**
1972 年（昭和 47）	63	「塞ノ神式土器」
1973 年（昭和 48）	64	「鍬形石の祖形－松ノ尾遺跡出土の貝製腕輪」
1974 年（昭和 49）	65	**嘉徳遺跡調査**　「奄美における土器文化の編年について」
1976 年（昭和 51）	67	**下小路遺跡調査**
1978 年（昭和 53）	69	昭和 53 年度朝日学術奨励金を三島格（代表）らとともに受ける（研究題目 九州と南島の古代文化の交渉研究）
1979 年（昭和 54）	70	勲五等雙光旭日章受勲
1980 年（昭和 55）	71	**東黒土田遺跡調査**
1981 年（昭和 56）	72	「市来式の祖形と南島先史文化への影響」
1982 年（昭和 57）	73	**中甫洞穴調査**「縄文草創期の貯蔵穴－鹿児島県東黒土田遺跡」
1988 年（昭和 63）	79	『日本の古代遺跡 38 鹿児島』
1989 年（平成 元）	80	「吉田式と前平式のその後について－南九州の早期縄文土器」
1990 年（平成 2）	81	「縄文晩期の土器－上加世田 44 年 8 月調査資料を中心に」
1991 年（平成 3）	82	「市来式と擦切手法」
1993 年（平成 5）	84	「型式の再考察－山ノ口遺跡ほか」
1995 年（平成 7）	86	「考古学における型式の実態」
1998 年（平成 10）	89	地域文化功労者賞受賞（県考古学会）
2000 年（平成 12）	91	「縄文から弥生へ軟着陸の高橋貝塚」
2001 年（平成 13）	92	「新田神社・三角縁神獣鏡」
2008 年（平成 20）	99	日本考古学協会賞受賞
2011 年（平成 23）	101	1 月 10 日満 101 歳で逝去

教員時代

ご自宅にて

夏休みにパワーアップ！　各種研修講座

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは，学校の先生方や市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした研修講座を毎年開催しています。今年度も，７月から８月にかけて，主に以下の内容で講座を開催し，多くの参加をいただきました。

整理作業の業務を体験

埋蔵文化財を活用した授業づくり

遺物撮影の技術研修

発掘現場で地層と遺構検出を学ぶ

パワーアップ研修（10年経験者研修）・先生のための考古学講座

学校の先生方を対象とした研修講座で，埋蔵文化財センターの業務と役割，県内の遺跡や埋蔵文化財について学びました。また，報告書作成業務も一部体験しました。最後は，参加者同士で埋蔵文化財を活用した授業づくりを行い，２学期に向けて有意義な研修となりました。

参加者の感想

- 県内には，本当にたくさんの遺跡があることを初めて知りました。こんなにも身近なものなんだということも知りました。
- 自分で洗った土器，拓本にした土器に愛着がわき，とてもいとおしく感じました。
- 目の前に9500年前のものがあると思うだけで，ドキドキワクワクしました。

埋蔵文化財専門職員養成講座（初級・中級）

市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした講座で，内容により初級・中級・上級に分けて実施しています。今回は，初級・中級を実施し，発掘調査や報告書作成に関する知識・技術習得，埋蔵文化財保護行政に関する業務や法令等について，研修を行いました。

参加者の感想

- 遺物実測をさせていただいたのですが，とても楽しく，もっと深く学んでいろいろな種類の遺物実測をしたいと思いました。
- 発掘調査から整理作業までに必要な事や流れが分かり，役立つ知識が増えました。
- 行政の文化財業務がよく分かりました。

デジタルコンテンツ

『かごしまの考古学』

鹿児島県の考古学の最新情報を，もっと多くの人に分かりやすく伝えたい…。そんな思いから生まれたのが，「デジタルコンテンツ『かごしまの考古学』」です。近年発掘調査を行った遺跡の詳細や特定のテーマについて，ホームページ上で毎月情報発信を行っています。

令和２年４月にスタートして，「鹿児島城跡の瓦について」や「鹿児島の戦争遺跡」など，第６回まで掲載しています。また，Facebookも開設していますので，併せてご覧ください。

右のQRコードを読み込んで
ホームページにアクセス！

「ワクワク考古楽」授業支援について

埋蔵文化財センターでは，「ワクワク考古楽」というタイトルで，県内の小・中・高等学校において歴史学習や地元の文化財について学ぶための授業支援を行っています。今年度はこれまで，知名町立知名中学校，和泊町立和泊中学校，南大隅町立佐多小学校，出水市立江内小学校，県立大口高等学校，曽於市立檍小学校，曽於市立笠木小学校で実施しました。

授業の様子（本物に触れることができました）

子どもたちにとって，考古学と出会える機会は大変貴重だと考えます。私たちは歴史学習に興味・関心をもたせるために努力されている学校現場を支援し，子どもたちに地域の遺跡についてもっと知ってほしいと考えています。

佐多小学校では，「発掘調査の様子や地層」，「縄文時代の暮らし～衣・食・住～」，「南大隅町の国指定文化財」を題材としたクイズ形式で学習を進めました。参加した児童たちは，「一番すごいなと思ったのは，アカホヤ火山灰がこの大隅半島にまで降り積もったということでした。」，「大泊に貝塚があることを初めて知って，そこから土器が見つかってすごいなと思いました。しかも，その土器にさわることができてうれしいでした。」などと綴った感想文を送ってくれました。大泊貝塚で出土した土器に直接触れ，それが縄文時代の土器だと知ると，子どもたちの目は輝き，縄文人の行動範囲の広さに感嘆の声を上げていました。これからも「ワクワク考古楽」を多くの学校で活用していただき，身近な地域の歴史や文化財について興味・関心をもっていただく機会を作りたいと考えています。どしどしご相談ください！！

発掘調査速報展を開催中！

上野原縄文の森では毎年３回の企画展を行っています。現在，**第 58 回企画展「新発見！かごしまの遺跡 2020　発掘調査速報展」**を開催中です。昨年度，報告書が刊行された遺跡を中心に，西南戦争関連遺跡から時代を遡って旧石器時代までの新資料を紹介しています。

特に，これまで未解明な点の多かった飛鳥時代（７世紀）の土器類や，南九州最大の花弁形住居跡から出土した弥生時代終末～古墳時代初頭（３～４世紀）の出土品が注目されます。飛鳥時代の土器は，形が古墳時代とほとんど変わらない在地の甕形土器に，当時の中心地である畿内地方の影響を受けた甑や椀などが加わります。花弁形住居跡からは，住居を廃絶する際の祭祀に用いられたと考えられる，文様の施された特殊な形の土器なども出土しました。

また，新たに国指定史跡となった鹿児島島津家墓所や阿多貝塚も，各市町村の協力を得てパネルなどで紹介しています。令和２年 11 月８日（日）までの会期です。

なお，次回の第 59 回企画展は，海との関わりをテーマに，旧石器時代から弥生時代における海辺の生活や海を渡った交易品などを紹介する予定です。期間は，令和２年 11 月 21 日～令和３年３月７日です。

企画展の様子（実寸大の花弁形住居に多くの土器を展示しています）

発掘速報！「石垣の構造と履歴」 ―鹿児島（鶴丸）城跡―

石垣内部の様子

鹿児島（鶴丸）城跡では，平成27年度の大雨で崩れた黎明館北側の堀を囲む石垣の修復に伴う発掘調査を行いました。調査は石垣の構造を確認することを目的とし，石垣修復のための解体工事と同時併行で行いました。

調査箇所の石垣は，表面が長方形の石を横並びに積む布崩し（ぬのくず）積みと表面が正方形の石を斜め方向に積む谷崩し（たにくず）積みの２種類がありました。また，布崩し積み石垣では裏込（うらごめ）をもつものともたないものの２種類があり，谷積み石垣には裏込があり，その下には石垣が沈むのを防ぐための胴木（どうぎ）が敷かれている，というそれぞれの石垣の構造がわかりました。石垣は，①裏込をもつ布崩し積みの石垣→②裏込をもたない布崩し積みの石垣→③谷崩し積み石垣の順で築かれており，中でも谷崩し積みは，裏込をもつ布崩し積み石垣を覆い隠すような形で築かれていました。

これまで堀外側の石垣の発掘調査は行われたことがなく，今回の調査は，石垣の構造や現在の石垣が築かれるまでの過程を考える上で重要なものとなるでしょう。

※裏込：石垣の裏側に，石垣の傾斜に沿って排水対策・振動対策として埋められた大小様々な石の層

発掘調査の様子

発掘速報！「有力者の住んだ古代の集落か？」 ―久保田牧遺跡―

発見された古代の掘立柱建物跡

久保田牧遺跡は，鹿屋市吾平町に所在し，姶良川と大姶良川に挟まれた標高約40mの台地の縁辺部に位置する遺跡です。令和元年度から本格的な調査が始まり，今年度は２年目になります。今年度は古墳時代，古代，中世の生活の跡や土器・石器などの道具類が見つかっています。

10月までの調査で古代・中世の層がほぼ終了し，古代の調査では掘立柱建物跡や溝（道路）状遺構，墨書土器，須恵器等が見つかりました。掘立柱建物跡は3棟見つかり，庇（ひさし）を持つものや総柱の建物もありました。複数の建物跡と溝（道路）状遺構は方位（東西南北）を意識して造られており，墨書土器等も出土していることなどから，当時の有力者が暮らした集落の可能性も考えられます。集落跡が周辺一帯においてどのような役割を担った場所であったのか，今後の調査・分析で解明していきたいと考えています。調査期間は２月初旬までの予定です。ぜひ発掘現場の見学にお越しください。

平行に延びる溝（道路）状遺構

当センターの見学は，土曜・日曜・祝日・年末年始を除き，毎日午前９時～午後５時まで，入館料は無料です。

なお，当センターのホームページは，鹿児島県（https://www.pref.kagoshima.jp/）から入るか「上野原縄文の森」で検索してください。また，フェイスブックは右側のＱＲコードからお入りください。

検索キーワード　上野原縄文の森　検索　クリック

ホームページ　フェイスブック

埋文だより　第83号
発行日　令和２年10月30日
編集・発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL:https://www.jomon-no-mori.jp
E-mail:maibun@jomon-no-mori.jp